



大津町の銘菓「銅銭糖」作り体験。子どもたちに郷土愛を持ってもらいたいと企画し、大盛況

Public relations
OZU TOWN

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ



広報 おおづ 2017 6

発行・編集 大津市 総務課
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

UD FONT
易やすぐ読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

6
JUNE 2017

今月の表紙

4月23日に行われた大津つじ祭の一場面。写真を撮る保護者たちに見守られ、手作りの神輿を担ぐ園児たちの元気な声が響きます(記事は2ページ)。

今月のおどろ

平成29年度行政区嘱託員の皆さんをご紹介します

～住民の皆さんと役場をつなぐパイプ役～

平成29年度国民健康保険税についてのお知らせ

風しんの抗体検査と予防接種助成



「子どもたちと 明るい未来のために」

東熊本青年会議所

「町の明るい未来を作りたい」その夢を真剣に語る人たちがいる。そんな東熊本青年会議所をクローズアップする。今回は31代目理事長、今村宣幸さん(写真前列右から5番目)に話を聞いた。

「地域を盛り上げたい」という熱い気持ちを持つ若者の集まりです。今村さんは語る。

青年会議所(通称JC)は20歳から40歳までという年齢制限を設けているのが特徴の団体で、「地域に貢献したい」と集まった、地元で働く青年たちが中心に活躍する団体だ。中でも大津、合志、菊陽、西原を中心に活動をしているのが「東熊本青年会議所」。今年度で31年目となる会員数は男女合わせて27人。日本全国に697の青年会議所があり、すべて合わせると会員数は約3万6千人。

例年の活動としては、青少年事業や地域活性化事業を行っている。

昨年の熊本地震の際には、提携をしている社会福祉協議会や他団体と一緒に災害ボランティアセンターの立ち上げと運営の支援などに取り組み、独自の支援として全国からの支援物資の受け入れや配布、避難所での炊き出しなどを実施した。「JCは実は災害にとっても強いんですよ。それぞれに「本業」を生かした支援も行いました。住民の感謝の言葉はうれしかった。今村さんは笑う。

県の大会として6月4日に行う「地域創生サミット」と「企業EXPO(エキスポ)」は、未来への熱い思いの集大成だ。「企業城下町大津として子どもたちに、数多くある企業の良さを知って、このまちで働くことに自信と誇りを持ってもらいたいです」。

地域のために行うことは、巡って自分や子どもたちに返ってくる。「より良い未来のために私たちが仲間と共に学び、これからの創造と変革を起こせるように、今できることを一杯頑張りたい」決して綺麗ごとではない決意の表情の奥に、まっすぐな瞳がのぞいていた。

つじ祭の声

▼JCの取材では新しい発見が多く、特に「未来のために」を嬉々として語る姿が心に刺さりました▼今村理事長のお父さんも4代目理事長だったという話を聞き、気持ちのつながりと歴史の深さと変わらぬ大津市民の熱さが私自身嬉しくなりました▼つじ祭はさわやかな風の吹く気持ちのよい天気でもたちの笑顔あふれる取材でした▼この日はブルーインパルスが熊本にきた日でもあります。大津でも西の空に小さく飛行機雲が見え嬉しかったです(MDEO)

からいもくん便り

大津町総合情報メール



携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。